

# 改訂版まえがき

本書の初版が発行されてから5年、日本国内でのインターネットの利用率は75.3%から82.8%へと増加した。特にスマートフォンの利用率がこの3年間で9.7%から62.6%と急増している。Windows OSもXPからタブレット仕様の8へと変わり、様々なクラウドも普及して、いつでもどこからでも便利なサービスを利用できる時代となった。しかしその一方で、インターネット上では新たな攻撃やトラブルが次々と発生し、一般の人が被害に遭う場面が増えてきている。

このたび改訂版を刊行する機会に恵まれたが、上記のような状況に対応できるように、主な攻撃者の手法とそれらへの対策についての説明を拡充するとともに、インターネット関連法の解説も法改正や新設に合わせて修正した。高度化する内容をできるだけ平易に解説しようと努めたが、専門的な用語を使わざるを得ない箇所も多々あった。そこでは、注釈するとともに必要な基礎知識について追記し、読者の理解の助けとなるように努めた。

目まぐるしく変わるインターネット社会においては、今回の改訂版によって今後起こり得る事件や事故を十分に回避できるとは言えないが、そのための必要な要素は盛り込めたと考えている。本書を通して、読者が被害者にも加害者にもなることなく、インターネット上の便利なサービスを享受するための一助となれば幸いである。

2014年9月  
佐々木 良一

# まえがき

インターネットが社会のインフラになってから久しい。総務省が2009年1月に実施した通信利用動向調査では、6才以上の日本総人口の約75%がPCや携帯電話またはゲーム機などでインターネットを利用しているという。確かに、日頃の連絡から企業活動やボランティア活動、娯楽などにおいて、インターネットは私たちにとっては欠かせないツールとなっている。検索は、百科事典代わりになり、オンラインショッピングも今や常識となってきた。また、ブログ等による情報発信も一般的になっている。オンラインゲームのように、見知らぬ者同士が回線を介してゲームに興じることも多い。インターネットによって私たちの生活の利便性がかなり向上するとともに、今までにはなかった方法でのコミュニケーションも盛んになってきた。

しかし、その一方で、ウィルスによる情報漏洩、大量に送られてくる迷惑メール、金銭を狙う詐欺、ネットいじめ、チャイルドポルノや自殺方法サイトなどの有害情報などの社会問題も目立ってきている。これらは、インターネットが一部の特別な人たちが使うツールではなく、電話などと同じ一般的なものとなったことによる。犯罪者も金銭目的でインターネットを“利用”している。それら影の部分への対策は従来十分には実施されてこなかった。

私たちがそのような被害に遭わないようにするには、次の3つの課題の解決が必要になると考えられる。

- (1) 情報セキュリティ技術の確立
- (2) 法律などの整備
- (3) 社会としての倫理観の醸成

本書は、大学などで情報倫理を学ぶ学生などを主な対象とし、上記の3つの課題を実現するための基礎知識を確立することを目指すものである。狭い意味での情報セキュリティ技術だけでなく、このような基礎知識をわかりやすく習得しておきたいという人は学生だけでなく社会人にも多いと考えられる。

著者の会田和弘氏は、大学で情報倫理の講義を続けると共に、NPO活動において地域の人々にインターネットの使い方や、情報セキュリティなどの教育をわかりやすく行っており、このような本を執筆するのに最適な人物であると考えている。このような著者によって作られたこの本が、情報社会を力強く生きる人々を増加させるのに役立てば幸いである。

2009年8月  
佐々木 良一